



豊高だより

平成28年7月22日発行 通算40号

埼玉県立豊岡高等学校

(題字は本校 櫻田 晴子 教諭)

巻頭言

校長 鈴木雅士

一 はじめに

大学入試は、知識と技能による競争です。国公立大学の入試では、かつての「一期・二期校入試から共通一次試験に変わり、そして現在の大学入試センター試験という変遷を経てきています。これらに培ってきた知識



と技能を測るものです。いま、新学習指導要領への改訂作業とともに大学入試が変わろうとしています。

二 大学の教育改革とともに

文部科学省が中教審の答申を受けて設置した「高大接続システム改革会議」が、本年3月27日に最終まとめを発表しました。これによると、まず、新たな学力の3要素とされる①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③協働し

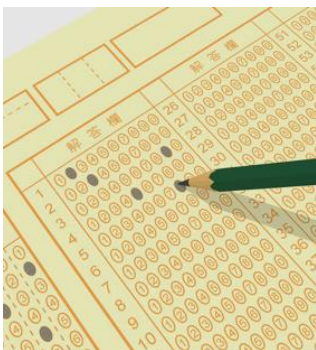
て学ぶ態度、を基本理念に、高校・大学それぞれの改革が必要であるとの方針が述べられています。高等学校教育の改革については、新たな教科導入を含む教育課程の見直し、アクティブラーニングの視点からの授業改善と教員の指導力向上、教科の観点別評価や各種検定試験等を利用した多面的な評価の充実、などが挙げられています。また、高校生の基礎学力の確実な習得と学習意欲の喚起に向けて、高校段階の基礎学力定着度を把握する仕組みとして「高等学校基礎学力テスト(仮称)」を31年度から導入すること。詳細は割愛しますが、大学入試等への利用については、新学習指導要領に移行する34年度以降に検討するとされました。

三 大学入試が変わる

さらに、もつとも気になる「大学入学希望者学力評価テスト」です。答申では、「教科型」に加えて「合教科・科目型」「総合型」の問題を組み合わせて出題、多肢選択型に加え記述式問題を導入、英語の4機能(聞読話書)を評価する問題の導入、年複数回の実施、段階別表示による成績提供、など現行の大学入試センター試験と大きく異なった内容です。記述式問題は32年度から導入し、当

面は「国語」「数学」の二教科だけのようですが、大きな懸念は、採点に要する時間から、テストの実施時期が早まることです。高等学校側では、早期実施はやめてもらいたいところなので、引き続きの検討とされました。また、大学教育の改革にあわせ入学希望者選抜も、各大学の「入学希望者選抜」を明確にするとともに、様々な評価方法をとり入れた入試とすること。すなわち、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の他に、「個別に行う入学希望者選抜」として、記述式テストや小論文、部活動等の報告書、資格・検定試験の結果、推薦書、エッセイ、入学希望理由書、学修計画書、面接、ディベート、集団討論等が考えられています。また、「AO入試」「推薦入試」については、現行の「学力検査を免除する」等の記載を排除する方向で実施要項を見直し、「一般入試」では、出題科目の数の見直しや、

記述式問題や小論文を導入するなど、新たな



なルールの方向が示されました。実は、私立大学ではすでに、求める学生像に基づく特徴ある入試を実施しているところがあります。高校生が自ら培って高めてきた多様な資質や能力を汲み上げられるようにしているものです。国立・公立大学は、多様性を尊重しつつも、あくまで「基礎学力」を中心に考えているように思えますので、高校の現場における教育内容に、どれほどの変化が要求されるのか注視していかなくてはなりません。

四 おわりに

以上、他にも様々な内容の方向が示されていますが、これからの時代においては、「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使つてどのように社会と関わり、よりよい人生を送るか」という観点が求められるものになってきます。「18歳選挙権」にともなう主権者教育も新しく入ってきまし。新しい学力観に基づく授業改善など、大学入試制度の変遷と併せて、変化の流れに敏感に対応していかなくてはいけないことも事実です。大学進学重視型の豊岡高校です。環境の変化に柔軟になりつつ、先進的な豊高づくりにより、関係各位ともども力を合わせて努力して参りましょう。

各年次より

『一学期を振り返り、夏休みに向けて』

一年次主任 井口正則

一学期の皆勤者は255名でした。年次全体としては、落ち着いた学校生活を過ごすことができたと思いますが、生徒個々で見ると学習に対する意欲や成果に、早くもかなりの差が出てきたようです。また「高校生」として自分の「今」を見つめ、「将来」を考えるとという姿勢は、まだまだ不十分であるように感じられます。

成績上位者は、クラスの順位にとらわれないことです。豊高生はライバルではなく、お互いを高め合う仲間です。

成績が思わしくなかった生徒は、強い危機感を持たなければなりません。高校卒業後の進路は、今後の自分の人生に大きく関わってきます。そういう意味で、自分が置かれている状況が、中学校時代とは全く異なることを自覚しなければなりません。学習に対する姿勢を根本から考え直して、一学期の遅れを取り戻すとともに、二学期以降はこのようなことがないようにしてください。

日本の、そして世界の高校生の多くは自分の将来の展望を持ち、その実現に向けた準備をもう始

めています。広い視野に立って、今後の学習に取り組む姿勢を持ちましょう。

夏休み中は生活習慣が乱れがちです。就寝や起床が遅くならないように。そして日課の中に学習時間を必ず確保して、夏休みの課題を計画的に行ってください。特に成績不振科目があつた生徒は、一学期の復習をしっかりとやっておきましょう。8月31日には宿題確認テストがあります。しっかりと準備をした上で臨みましょう。

夏休みは能力や適性・志向など自分を見つめ、将来を考える良い機会です。

「オープンキャンパス」で大学の雰囲気に触れるだけでも、それが意欲や目的意識につながります。夏休みの過ごし方次第で、一学期以降、ひいては今後の高校生活が大きく左右されます。高校生であることを忘れずに、時間を有効に使ってください。

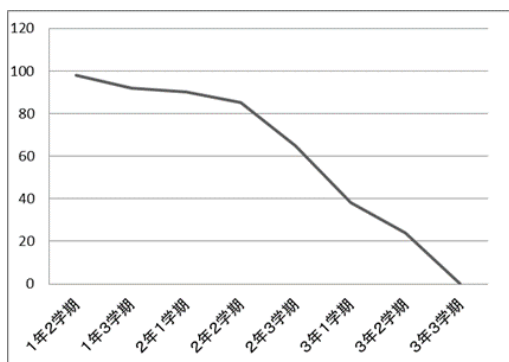
『長期的な視野のもとで計画を立て実行を』

二年次主任 橋本克洋

過日行われた懇談会でもお話しいたしました。いよいよ進路に関して大きな分岐点となる時期がやってきました。

グラフは「第一志望の大学に現

役で合格した大学生がいつから受験勉強を始めたか」というアンケートの結果で、縦軸が合格率、横軸が受験勉強の開始時期です。二年生の二学期までは緩やかな減少ですが、二年生の三学期を過ぎると合格率が大幅に減少しています。このアンケート結果を見る限り、第一志望の大学に現役で合格を希望するならば、いつから受験勉強を始めた方がいいのか明白だと思います。



しかし、二学期になると、まず、文化祭があります。年間の行事の中で最も大きな行事ではないでしょうか。たくさんのお客様が来校されます。しっかりと準備をして、成果を見ていただきたいと思います。

また、部活動では新人戦が始まります。ほとんどの部活動ではすでに三年次生が引退をしています。二年次生が部活動の中心となり活動を牽引していかなくてはなりません。

そして、高校生活最大のイベントである修学旅行があります。7月14日に崎原さんの講演や昇龍祭太鼓の演奏を通して沖縄の歴史や文化などを学びました。事前学習レポートの作成も進んでいるところです。事前の準備をしつかりやり、有意義な修学旅行にしたいと思えます。

勉強以外の面でも責任などが重くなり大変になる時期です。しかし、目先のことだけにとらわれることなく、長期的な視野のもとで計画を立て実行していくことも大切だと思えます。

『高い志と強い意志を持つ』

三年次主任 天海雅充

高校生活もあと八ヶ月になりました。進路実現に向けての取り組みは、夏休みのAO入試、就職活動から始まり、二期期の公務員と就職の試験・推薦入試、三期期のセンター入試・一般入試まで続きます。これから八ヶ月間、三年次生全員が希望する進路先に決ま

るまで進路活動をサポートしていきたいと思えます。

一学期の三年次生の様子を見てみると、早朝や放課後に本校1号館2Fの自習室や自習机、HR教室で勉強に一生懸命取り組み姿勢が増え、特に自習室や自習机付近には受験の雰囲気漂っているように感じます。「今年の三年次生は昨年よりも自習室や自習机の利用時期が早く、利用者も多いよ」と言われると嬉しく感じるとともに、期待も大きくなります。

さて、進路実現において重要なことは、「自らが希望する進路先に進めたかどうか」「高校在学中に進路先で必要な学力を身につけられたかどうか」と思えます。人間誰しも「早く決めて楽になりたい」と思うものです。早い時期に合格を手にした仲間が出たり、また、模試成績が思うように伸びなかつたりすると焦りが生じて志を変えることがあります。しかし、現役生が夏休みから一般受験までの期間を強い意志を持って必死に勉強すると、信じられないほどの学力が身につきます。その成果が出てくるのは年末年始から一般入試の時期になるので、焦つたり志を変えたくなくなつたりするのは当然かもしれません。最近よく耳にすることは、就職の面接試験で受験方法を尋ねる企業が増えている

そうです。そこで高い評価を受けているのは、長く苦しい受験勉強を耐え抜いた一般受験組のようです。一般受験による進学は、実力が身につくとともに、就職でも有利になることもあるので、最後まで高い志を持って粘り強く勉強してほしいと思えます。

また、もしAO入試や推薦入試で早い時期に進路が決まった人も、一般受験組と同様に卒業まで必死に勉強してほしいと思えます。それは、以前、伝統ある大学に指定校推薦で進学した卒業生が、推薦入学者と一般受験入学者では、英語力の差があり、推薦入学者は英語の授業をいつも教室の後ろの方で受けていると話していたからです。

いよいよ明日から夏休み、進路実現に向けて有意義な夏休みを過ごしてください。

生徒指導部より

『登校指導』を通じて

生徒指導主任 白木恭彦

鬱陶しい梅雨の時期も過ぎ、まもなく夏休みを迎えようとしています。

おかげさまで、ここまで大きな問題やトラブルも発生することな

く、多くの生徒が概ね、落ち着きのある高校生活が送れているのではないかと感じております。

さて、毎朝欠かさず実施している登校指導では、全ての教職員の協力の下、私自身生活の一部として、その活動が定着するとともに、確実にその成果が現れてきていることを実感しております。

登校指導というと一般的には、服装や頭髪をチェックし、一定の基準に基づいた指導がその場で行われるといったイメージを持たれるかと思われ



ますが、現実的には、どちらかというと「挨拶」に特化した指導がその中心となっています。それだけを考えてみても学校としての落ち着き感が伺えるのではないのでしょうか。

しかしながら、前述の件とは裏腹に生徒指導上問題はないが、同

時に元気がなく(大人しく)、言い方を変えると、あまり覇気が感じられない生徒が増えつつあるように思われます。その一つの指標として、自ら進んで「大きな声」で「元気よく」挨拶することができない生徒が多数派を占めているということが挙げられます。朝に関しては、正門に立つ先生方の声かけにより、明るい兆しが見えはじめて来ておりますが、まだまだ改善の余地を残していると言わざるを得ません。

一般的に学校社会において「大人しい」ことは「美德」として考えられがちですが、これから生徒たちを待ち受ける現代社会では「大人しい」ことがマイナスとなることも多々あるように思われます。

性格的なものは、なかなか変えられないものの登校指導(挨拶指導)を通じて一人でも多くの生徒が自ら進んで「大きな声」で「元気よく」挨拶ができるようにと願うとともに、日常的な「挨拶」が活気ある学校作りに役立てればと思いい、今後も継続していこうと考えております。

最後に、長期休業を迎えるにあたり、全ての生徒が安全に留意し生活を送ることはもとより、学

習活動や部活動に励むことで、二学期以降にその成果が現れることを期待しております。

充実した日々を過ごすためには是非、ご家庭でも「夏季休業中の生活について」を「一読下さるよう、よろしくお願い申し上げます。

保健室より

『1学期を終えて』

養護教諭 竹永恵美

菊池未来乃

四月からの定期健康診断は慌ただしくも無事終了しました。治療が必要な場合はお知らせを配布しましたので夏休みを利用して受診し、早めに治しておきましょう。保健室来室状況は、4月8日〜7月10日までで、のべ248人が来室しました。来室理由は様々ですが、

偏頭痛を訴える生徒が多いように感じています。偏頭痛は脳内の血管が何らかの理由で拡張し起こるといわれています。原因で多いのは気圧の変化や食習慣、生活習慣の乱れ・睡眠不足です。

偏頭痛をおこしにくい体を作るためには

- ①睡眠を十分にとる(最低6時間半)
- ②休みの日に夜更かしをしたり、

昼まで寝ることはしない。
③食事バランスよく食べることを心がけることが大切です。

夏休みを迎え生活リズムが乱れやすくなりますが、規則正しい生活を送り体調管理に努めましょう。

◎熱中症について

本格的な暑さになる夏休みには、熱中症が起りやすく今年も猛暑といわれています。頭が痛くなったり、身体がだるいときは熱中症のサインです。屋外で活動するときはこまめに水分や休憩をとりましょう。また体育館や室内でも十分起こる可能性があるので温度調整や水分補給を心がけましょう。

危険予防!
熱中症注意!

- ! 水分・塩分補給
- ! 適度な休憩
- ! 日よけ対策

H28年度 1学期保健室来室状況 (H28.4/8~7/10)

		4月		5月		6月		7月		計(人)
		内科	外科	内科	外科	内科	外科	内科	外科	
1年	男子	1	1	5	5	9	7	1	1	30
	女子	4	2	5	1	12	6	0	0	30
2年	男子	9	4	12	6	12	11	1	0	55
	女子	9	3	13	2	17	7	1	0	52
3年	男子	1	2	4	8	6	8	0	1	30
	女子	8	2	10	4	7	17	2	0	50
計		32	14	49	26	64	56	5	2	248